

女性従業員の視点を活かし、誰にとっても働きやすい職場づくりを実践

# 特定非営利活動法人あぐりの杜

※2017年3月現在

代表者名	河野 又雄	資本金	—
設立年	2013年10月24日	売上高	36百万円 (2015年9月1日期)
事業内容	生産請負（小松菜、水菜、リーフレタス）、消費者直売	経営規模	畑0.35ha、作業受託（葉物野菜）→一貫受託0.18ha
従事者数	23人（うち女性13人。女性内訳：役員1人、管理職2人、一般職4人、常勤パート6人）		
女性活躍支援	[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援] 産前産後休業、育児休業、短時間勤務制度等の措置、時間外労働及び深夜業の制限、母性健康管理のための措置、育児休業代替要員を確保、育児休業後の継続就業支援 [女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係（休憩室・野外トイレの設置）、重労働等の業務改善		



## 経営概況

(特)あぐりの杜は、2013年10月に農業と福祉の連携を志して設立し、就労継続支援B型事業所を開所した。事業内容は、(株)アグリーからの農作業受託の他、露地野菜栽培や織物制作、地域資源を活用した地域活性化等に取組んでいる。

農作業受託では、水耕栽培で小松菜、水菜、リーフレタス等を生産しており、障がい者は主に、播種、定植、収穫、根切りなどを行っている。

従業員は、正社員の管理職が生産部門に男性2名、総務・管理部門に男性1名、その他福祉のサービス責任者等として女性2名。

一般職では生産部門に男性2名、女性3名、その他部門で女性1名、常勤パートが生産部門に男性2名、女性5名、その他部門に1名がいる。

障がい者である利用者の数は男女合わせて現在30名おり、一日あたり約14名が圃場に出て農作業を行っている。職業訓練員・生活支援員となっている従業員が作業補助という形で利用者につき添い、仕事ができるように補佐している。

## 1. あぐりの杜の考え

農福連携には女性の感性やアイデアが活用できると考え、女性が発言しやすい職場、女性が働きやすい環境を意識して事業に取り組んでいる。

女性が安心して働ける環境作りのため、設備の整備、農作業の業務改善を行ってきた。また、就業規則を見直し女性が活躍できる勤務体系や賃金



規定を整備している。

社員の育成については、社外の研修を活用し女性従業員のキャリア形成も進めている。

今後は、女性中心のプロジェクトチームにより6次化を計画している。

## 2. 女性従業員のキャリア形成と活躍

女性従業員のキャリア形成として、福祉に関する資格の一つであるサービス管理責任者の資格取得を推進している。また事業計画、リスク管理、業務改善、商品開発など、各々のセクションに応じてOJTやOFF-JTを実施している。

このような取組みにより、アグリから委託されている販売促進業務では、他社商品と差別化を図るためのポップ作成アイデアが女性社員から生まれ、売上げ増加に繋がっている。

またHPやFacebookを活用し、女性の視点で農場の様子や野菜の情報を日々公開。生産者の顔や取り組みが見える情報により、消費者に安心感を与え、購買層を増やしている。

その他、農場で生産した野菜を使用したレシピを作成し、クックパッドに掲載。クックパッド人気検索トップ10入りを果たすなど、女性の活躍が起動力となって、着実にファンを増やしている。

## 3. 女性従業員・障がい者 双方の働きやすさの実現

女性従業員の提案により、ビニールハウスの屋根の開閉電動化、資材運搬時にレール付き台車を使用するなど、従業員の声を取り入れた環境整備を行っている。これらの環境整備は、障がい者にとっても労働負荷の軽減になっており、女性にとっても、障がい者にとっても、働きやすい職場となっている。

また、農場には男女別の仮設トイレを設置し、

女子トイレには洗面台を備えるなどきめ細かい心配りもある。

## 4. 子育て・出産に係わる制度

従業員は主婦が多く、「仕事の充実が家庭の充実から」との考えで週休2日制を導入している。農作業自体は年中無休であるが、従業員の役割分担を明確にし、シフト制にすることで、夏季・冬季休暇、有給休暇の取得も可能にした。勤務時間は、変形労働時間制と短時間勤務を取り入れ、従業員個々のライフスタイルに合った勤務体系を整備している。

また、産前産後休業や育児休業が必要な従業員には代替要員を確保し、復職後も子供の急な病気などに対応できるよう社内体制を整えている。他にも、定年退職後に働く意欲がある女性従業員をパートとして再雇用し、体力的に通勤が負担になる場合は在宅勤務も可能としている。

### 審査委員の声

農業と福祉の連携において、施設利用者を女性目線から細やかにケア、また主婦の感性とアイデアを重視している。結果週休2日の導入や設備整備、農作業の改善がなされ、多様な人材の力を活かす環境づくりが生産効率向上に結果としてつながるという好循環につながっている。

多様な人材がかかわるからこそ生まれる知恵は、他事業所にとっても参考となる仕組みや手法がある。